

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.238

2025. 8. 1

発行：平和憲法・9条をまもる
岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL 019-684-2225

FAX 019-684-2227

「税金は暮らしの拡充に 戦争準備の軍拡は中止して、憲法、平和、いのち、くらしを守る政治への転換を求める請願署名(略称=大軍拡反対請願署名)」に、ご協力ください! ◇署名用紙が不足の場合は、岩手県生協連までご連絡ください。

安保法制強行採決の映像をみて考えあいました —都南9条の会総会・20周年のつどい開催—

6月14日18人の参加で開催。活動のふりかえりと今年度の取り組みの確認後、安保法制がいかに乱暴なやり方で成立させた法律なのか、10年前の「安保法制」が成立される2日前の参議院特別委員会での強行採決の映像(約8分)をみんなで鑑賞。「敵基地攻撃能力」「軍事費拡大」など、国民そっちのけの暴走が拡大している中、みんなで望ましい在り方を考え合いました。

10年前のことで大混乱の背景がつかめなかったのですが、解説付きで鑑賞し、「そうだったのかあ」など驚きの声があちこちで聞かれました。そもそも「賛成の諸君は起立してください」「賛成多数。よって本法案は可決されました」の声が聞こえないばかりか、議事録には「発言する者多く、議場騒然。聴取不能…」という記録しか残っていないのです。何度見ても「アベ政治を許さない」という思いが沸き上がってきます。

「良識の府」たる参議院の実態をみせつけられ、こんなやり方で可決させた与党の責任は大きいです。戦争への道は民主主義のルールを無視してすすめられるのだと痛感しました。(事務局)



沖縄の人々との連帯、反戦と平和への祈りを込めて —沖縄とつながる岩手のつどい in 前沢開催—

6月23日は「沖縄慰霊の日」。沖縄の人々に連帯し、平和への祈りをこめた取り組みをしたいという声を受けて、

前沢9条の会は昨年「沖縄とつながる岩手の会」共同代表岩間滋さんのお話をお聞きする「沖縄報告会」を新婦人たんぼぼ班と共同開催してきました。また、昨年の沖縄報告会は、2022年開催の「サンマデモクラシー」を観る会、2023平和のつどい・高里鈴代講演会に続く、2024平和のつどい・映画「月桃」上映会のプレ企画・総決起の場でもありました。

今年は「沖縄とつながる岩手のつどい in 前沢」と名称を変え、慰霊のエイサーによるオープニングを「みちのく祭り太鼓」の皆さんに依頼。また、岩手から「第32軍司令部壕の保存・公開を求める会」を支援する市民有志

呼びかけ人の小野寺敏光さんと、「沖縄とつながる岩手の会」共同代表岩間滋さんにお話しをお願いしました。

当日は50人を超える参加で、沖縄に米軍基地が集中している理由、米軍による沖縄支配の現実、戦争遺跡等負の遺跡を保存・公開・継承していく意義と重要性、米軍の海兵隊基地が沖縄に集中している理由(経費を日本が負担している経済性)とその軍事的無意味(海兵隊は殴り込み部隊だから第一撃で全滅する場所には置けない)等、新しい視点からの発表・質疑もあり、私達の意識変革と行動変容につながる濃密な「つどい」ができました。

また、14,082円の会場カンパがあり、会場外でのカンパを合わせ25,000円を沖縄平和市民連絡会に送金。これまでの合計送金額は、13,8000円になりました。

このような「つどい」をできれば県内各地で開催していただきたいと思って「in 前沢」としました。ただし、つどいは、思想信条や立場の違いを一旦脇に置いて平和への願いで集う一点共闘であり、特定政党や個人の後援会ではないことを、この際明確にしたいと思います。沖縄でおこなわれる集会の開催要項には政党の宣伝活動への利用



禁止が具体的に記載されていますが、今後は前沢でもこのことを明記し徹底していきたいです。そうしなければ、これまで政治的立場の違いを超えて私達の活動に協力していただいた方々の思いを裏切ることになり、前沢9条の会の存在意義を自ら否定することになるからです。

大きな課題を提起された今回の「つどい」でしたが、困難があってもへこたれずに「つどい」を開催し続けたいと考えておりますので、これからもよろしく願い申し上げます。(前沢9条の会・岩淵俊樹)

核兵器のない世界を！猛暑の中、県内全市町村を行進 —2025年国民平和進行報告—

戦後・被爆80年の原水爆禁止世界大会にむけ、国民平和進行が6月7日～15日にかけて、県内全市町村を行進、自治体訪問を行いました(同実行委員会主催)。県被団協被爆80年の歴史的な年にふさわしい平和行進にしようと、県内各地域にある実行委員会の意思統一や準備が進み、その結果、連日30度を超す猛暑の中でも、行進参加者数は延べ740人(昨年659人)となりました。

今年は、久しぶりに全国通し行進者が県内を通過することも追い風となり、遠野と金ヶ崎で行進が復活。相次ぐ核威嚇や北朝鮮のミサイル発射、パレスチナ・ガザでのジェノサイド、石破政権の大軍拡など多くの県民が不安を抱える中、子どもや中高生、ファミリーが大きく手を振って応えるなど、昨年以上に行進が歓迎されました。

6月10日に行進団は盛岡市入りし、県公会堂前で歓迎集会を開催。集会には約100人が参加しました。翌11日には盛岡市と県庁を表敬訪問し、懇談。県庁では八重樫副知事が応対しました。首長と議長本人との懇談にも力を入れ、各地で日本被団協のノーベル平和賞受賞が話題となり、懇談がはずみましました。また、被爆80年の年にふさわしい「非核都市宣言」の実践について、率直に首長や自治体幹部職員と意見交換を行いました。この取り組みの中で、首長・議長からの「日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める」個人署名が3名分増えています。

この行進の取組を、今年の原水禁世界大会の成功に生かしていきます。(吉田博)



《お知らせ》 どなたでも参加できます

「胆江地域2025平和のつどい」8月17日(日)14時～15時半(開場13時半)

奥州市文化会館Zホール 展示室 **入場無料**

- ◇絵本「とばないひこうじょう」(絵・文 森田 純) スライド上映 朗読・宮地紘子さん お話・穴戸春雄さん
- ◇「日本被団協ノーベル平和賞授賞式」随報告 岩手県被団協事務局長 下村次弘さん
- ◇原爆パネル展 悲慘な戦争の実相、高校生が描いた原爆の絵、その他を展示します

お問い合わせ：胆江民主商工会内 平和のつどい実行委員会 TEL0197-24-0716

コラム

—衣の下の鎧、衣を脱ぎ捨てようとした石破首相!—

7月5日(土)、「参議院選」の真っ只中、石破首相は新潟県入りし、選挙応援演説の中で戦前の旧日本海軍「連合艦隊司令長官」の故山本五十六氏が「戦を忘れれば国は滅びる」(要旨)と言っていたという。「自らの『大軍拡』を正当化」と報道解説。コラム子はさらに『戦争の準備』があからさま」と追加解説したいがいが。

コラム子は石破首相に問いたい。「日本国憲法下の内閣総理大臣」である石破首相よ、誰に向かって呼びかけているんですかと。「内閣総理大臣」も「日本国憲法を遵守しなければならない一員」。同首相は同「憲法」をすでに乗り越えているのではないかと疑いたい、如何でしょうか。そうであれば、同氏は「日本国憲法下の内閣総理大臣」を落第していることとなります。そのような人物が「日本国憲法『改悪』の旗振り」をしていることになりましょう。これは速やかに止めさせなければならないこと!「日本国憲法『前文』で我ら(国民)はこの憲法の原理原則に反する憲法等を拒否する」となっているからであります。いやはや気が付いてみれば大変な人物が「内閣総理大臣」になっていたもんだ! ではないでしょうか。(T)

「8月の岩手の会街宣行動」8日(金)12:15～12:45 盛岡市大通・野村証券前

ご都合のつく方は、ぜひご参加ください!